

令和7年度 平塚市地域包括支援センター事業報告書

1 事業計画の取組結果について

(1) 計画目標の達成状況について

4つの事業、28の取組ごとに、地域包括支援センターで設定した計画目標の達成状況を確認した。

評価に当たっては、各地域包括支援センターによる自己評価し、その結果を包括支援センター管理者および法人から、地域包括ケア推進課、高齢福祉課、保険年金課の3課にて報告を受けた。

【事業】

- 1 介護予防ケアマネジメント事業等 取組数：7
- 2 総合相談支援業務等 取組数：5
- 3 権利擁護事業等 取組数：12
- 4 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務等 取組数：4

<事業・業務等の概要>

(1) 介護予防ケアマネジメント事業等

高齢者の方々が、自立して生活できるように、生活の仕方やサービスの利用などについて助言・紹介するなど、それぞれの状態像に合った健康づくりや介護予防を支援します。

(2) 総合相談支援業務等

高齢者本人、ご家族、地域の方々からの相談や悩みに対応し、情報提供やサービスを紹介します。介護保険だけでなく、様々な制度や地域資源を利用した総合的な支援を行います。

(3) 権利擁護事業等

高齢者の方々が安心して日常生活を送れるよう、権利を守る取り組みを行います。また、高齢者の人権や財産を守る権利擁護や虐待防止の拠点として、成年後見制度の活用や虐待の早期発見・防止を進めます。

(4) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務等

高齢者の方々が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域のケアマネジャーへの指導・支援など、地域の様々な機関・専門家と連携・協力できる体制（ネットワーク）づくりに取り組みます。

(2) 目標達成結果（事業全体）

- ・目標に対しての達成状況は事業全体が概ね順調に実施された。
- ・「包括的・継続的ケアマネジメント支援業務等」においては、地域ケア会議の実施状況に地域包括支援センターごとの差がある。そのため、これを重点目標の課題として、引き続きどのセンターでも実施できるように支援していく。

【達成結果一覧】

事業名	達成		未達成		計
	取組数	割合	取組数	割合	
1 介護予防ケアマネジメント業務等	80	87.9%	11	12.1%	91
2 総合相談支援業務等	57	87.7%	8	12.3%	65
3 権利擁護事業等	141	90.4%	15	9.6%	156
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務等	41	78.8%	11	21.2%	52
計	319	87.6%	45	12.4%	364

(3) 目標達成状況（各包括）

事業名 / 包括名	あさひきた		あさひみなみ		おおすみ		倉田会		ごてん		サンレジデンス湘南		とよだ	
	達成数	未達成数	達成数	未達成数	達成数	未達成数	達成数	未達成数	達成数	未達成数	達成数	未達成数	達成数	未達成数
1 介護予防ケアマネジメント業務等	6	1	6	1	7	0	6	1	7	0	6	1	6	1
2 総合相談支援業務等	5	0	5	0	4	1	5	0	4	1	5	0	4	1
3 権利擁護事業等	11	1	12	0	10	2	11	1	11	1	12	0	11	1
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務等	3	1	4	0	3	1	4	0	2	2	4	0	2	2
計	25	3	27	1	24	4	26	2	24	4	27	1	23	5

事業名 / 包括名	ひらつかにし		富士白苑		ふじみ		まつかおか		みなと		ゆりのき		合計	
	達成数	未達成数	達成数	未達成数	達成数	未達成数	達成数	未達成数	達成数	未達成数	達成数	未達成数	達成数	未達成数
1 介護予防ケアマネジメント業務等	4	3	5	2	7	0	7	0	7	0	6	1	80	11
2 総合相談支援業務等	3	2	4	1	5	0	5	0	4	1	4	1	57	8
3 権利擁護事業等	11	1	12	0	8	4	11	1	9	3	12	0	141	15
4 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務等	2	2	2	2	3	1	4	0	4	0	4	0	41	11
計	20	8	23	5	23	5	27	1	24	4	26	2	319	45

（４）重点目標 地域課題

＜重点目標＞

各包括が設定した「地域課題」、市として全体で取り組む「共通目標 1（地域ケア会議推進事業）」「共通目標 2（認知症総合支援事業）」の 3 つを設定する。

＜地域課題＞

令和6年度末に、各包括が圏域の高齢者やその家族、民生委員、介護支援専門員（ケアマネジャー）、医療機関、地域住民など相談などの質的情報と、高齢化率や相談件数などの量的情報を合わせて分析し、包括がとらえる地域課題を抽出した。

令和7年度は、抽出した地域課題の解決に向けて、中期目標（令和8年度に目指す姿）令和7年度の短期目標を設定し、事業に取り組んだ。取組は、個別支援だけでなく、地域ネットワークの構築、地域の社会資源の開発、住民への啓発活動など多角的にわたる。

評価に当たっては、各地域包括支援センターによる自己評価し、その結果を包括支援センター管理者および法人から、地域包括ケア推進課、高齢福祉課、保険年金課の 3 課にて報告を受けた。

＜地域課題＞

地域において、そこに暮らす人々や地域の持続可能性に影響を及ぼす、解決すべき問題や困難の総称です。単に「個別の問題」を指すのではなく、その地域の歴史、文化、経済、地理、人口構成など、様々な要因が複雑に絡み合っていることが多いのが特徴です。

	包括名	地域課題	令和7年度中期目標	令和7年度短期目標	令和7年度評価
1	あさひきた	圏域内にクリニックや歯科医院は多くあるが、アクセスの悪さや身体機能・理解力の低下、経済的理由から受診をしなかったり途切れていたりする方が多くなっている。	圏域の医療機関や住民からの通院に関する相談が増える等、通院が困難になる前時に相談できる場所として包括の認知が進んでいる。	圏域内の医療機関や通いの場に参加している方が、包括へ相談できる内容を理解している。	・圏域内の医療機関や通いの場に職員が周知を行う事で、信頼関係を構築できた。 ・令和8年度も継続して通いの場等に対して周知を行うことで、包括の支援が必要な時に住民から住民へ包括の周知を広げていく。
2	あさひみなみ	地域の高齢化率も34.2%と平塚市の高齢化率29%より高く市内で2番目の高値。比例して認知症高齢者の増加が予測されるため、認知症の普及・啓発、早期対応、予防のための仕組みづくりが必要。また、家族や近隣との関係性も希薄になってきているため、見守り等のネットワークの構築が必要。	地域の人に包括を知ってもらい、認知症予防、介護予防のための教室に新たな参加者が増える。	身近な場所として包括が認識される。	・地域に対して情報発信を行い、身近な相談場所として包括が認識された。 ・目標の達成は出来たが、地域とのヒアリングの中で地域資源を知らない住民が多かったため、令和8年度は地域資源について住民に周知する事を目標とした。
3	おおすみ	地域の高齢化に伴い、独居高齢者だけでなく高齢者のみの世帯が増加している。役員を務められないため自治会からも脱退し、孤立している世帯が多いことや地域の関係性の希薄化などにより、日常的な相互の見守りがなく異常に気付きにくい。地域の見守りが住民の負担や不快感なく行えるよう、見守り体制の整備や支援が必要である。	①地域住民に、日常的な見守りや住民同士の安否確認の方法について普及している。 ②心配事を気軽に相談できる地域のネットワークづくりが進んでいる。	・地域の実情を把握する。 ・フォーマルサービス以外の見守りや安否確認の方法について、情報交換の場があり、支援団体が課題を共有できる。 ・認知症に対する理解を深める機会を持つ。	・協議体や民児協定例会、地域活動推進会議や包括の周知活動等を通じて地域の関係性の希薄化が想像よりも進んでいることがわかり、地域の実情把握ができた。 ・インフォーマルな見守り状況を個別に把握し可視化することは現実的ではないと判断した。そのため、各団体の情報共有や連携が取れる関係づくりを推進し、効果的な見守り体制を構築することに方針転換した。

	包括名	地域課題	令和7年度中期目標	令和7年度短期目標	令和7年度評価
4	倉田会	市内で一番高齢者人口が多い地域だが、高齢化率は一番低い。 大型商業施設が近隣に進出してきたことで、若い世代(マイホーム購入者)の転入も増え活性している状況もあるが、他市町村からの転入ということで地域資源への認識や近隣同士の助け合いという点において劣っている。	住み慣れた地域で生活続けるために多世代が自分ごととして共に考え、支え合える地域となれるよう、包括主催で若い世代と高齢者が定期的に地域課題について意見交換できる場ができている。	地域で生活を送る多世代との交流を通じて、個のニーズ・地域のニーズを把握していく。	・地域包括支援センターの認知度が低く、どのような業務を行っているのかの理解度が低いと感じた。地域住民が地域包括支援センターの存在を理解していないまま訪問しても、良好な関係の構築や地域の情報を得ること、困り事の相談を受けることに繋がらない。そのため、地域包括支援センターの存在や業務への理解を得つつ、地域の高齢者の様子がわかるような働きかけが必要と判断した。
5	ごてん	独居高齢者の増加。身寄りなし。親族遠方の為契約、緊急時対応等の対応が困難なことが多い。 内縁関係などどこまで法的に関りを持てるのか、法的根拠も薄く対応に苦慮することがある。 認知や精神疾患、8050問題など増えている。	問題が複雑化する前に発見・対応ができるためには、地域で何が必要なのか検討する場ができている。	長寿会、自治会、民生委員に対し、包括の役割周知を行う。 関係機関と相談や情報共有しやすい関係を構築する。	・長寿会、通いの場サロンに毎月参加することで相談しやすい関係構築に繋がっている。また、包括を知っている方が友人を連れて体操やイベントに参加される事もあり、包括周知の輪が広がっている。 ・医療機関への認知症サポーター養成講座の周知を行う事で、認知症サポーター養成講座開催に繋がった。 ・小学校、医療機関等で認知症サポーター養成講座を実施し、包括の周知と認知症の理解を深めることができた。 ・地域住民、医療機関等がどのような時に包括に相談したら良いか分かると、より早期発見・早期対応に繋がるため、どのような時に相談して欲しいのかを地域住民、医療機関、地域企業に周知する必要がある。
6	サンレジデンス湘南	地域活動を担う方の高齢化や後継者の減少があり、近隣とのつながりも希薄化している。 また、今後地域の見守りや地域活動が十分に行えなくなることが予測される。 そのため、様々な世代が地域課題を共有してけるような仕組みが必要となる。	①地域課題解決のための目標を地域の方と一緒に考えられる。 ②今ある生活支援を含めた地域活動の継続ができる。 ③高齢者と若い世代が地域課題を話し合う場ができている。	地域活動を行なう上で地域の担い手不足解決のため、地域の方と一緒に考える。	・包括に入る相談内容として、地域での生活が困難になってから包括に相談がくるが増えており、地域では対応が困難な状況になるケースが多いことが認識できた。 ・短期目標達成のためには、生活が困難になる前の早い段階で相談機関につなげることがより重要と考えた。 ・そのため地域でのつながりや見守り体制を強化し早い段階で相談ができるように包括の周知を行い地域でのつながりや見守り体制構築に向けた話し合いを行うこととした。

	包括名	地域課題	令和7年度中期目標	令和7年度短期目標	令和7年度評価
7	とよだ	地域内に、高齢者介護等の相談が出来ずに困っている人が少しでも減る様、包括が身近な所に存在している事を、特に60～70歳代の地域住民に知ってもらう必要がある。	60～70歳代の地域住民から、包括への相談件数が増えている。	特に60～70歳代の人に、包括の周知が出来るための活動が実施出来ている。	・短期目標達成状況について、「取組予定」は実行できた。 ・令和8年度に向けては、他の業務もあるため実行にあたっては、より詳細な行動計画を立てる必要がある。
8	ひらつかにし	地域特性によって身体状況と住環境がマッチしなくなってきたことや、家族と疎遠で、サービスや用具などの導入が困難な場合があるため、早めに発見し支援につなげる必要がある。	前期高齢者を中心に包括の役割や地域ネット、既存のサロンが継続できる。	早めの介護予防・早期発見ができる。	・取り組み予定を実施でき、サロンの参加人数は増えてきている。令和8年度も昨年度と同様、関係づくり・連携に努める。また、包括の役割についての情報発信を行い、多世代に広げる必要がある。 ・11月の民生委員の改選にあたって当地区は欠員が多く、1名も選出されない地区もあったため、新任の委員との関係性の構築に努めていく。
9	富士白苑	民生委員、自治会、ボランティア、サロン参加者など地域の担い手の高齢化が進み、世代交代が難しいため、地域活動の担い手不足が深刻化している。	前期高齢者を中心に包括の役割や地域ネットワーク構築が必要であることが周知され、既存のサロンが継続できる。	様々な地域活動に参加し、包括の役割の周知や地域の実情把握が行っている。	・地域活動や地域団体の会議に出席することで、地域との関係性を良好に保ち、包括の周知や地域課題についての共有ができています。 ・若い世代との情報共有や意見交換を目標としたが、若い世代に包括の役割に関心を持ってもらうことは難しいと判断した。そのため、若い世代にこだわらず、これまで関わりのなかった地域住民・地域団体への周知を図り、課題が深刻化する前の早期相談・早期支援に繋げるために令和8年度短期目標を変更した。

	包括名	地域課題	令和7年度中期目標	令和7年度短期目標	令和7年度評価
10	ふじみ	圏域内のほぼ中央に位置した場所に事務所があり、公民館や福祉村も近い ため体操教室など開催しやすいが、拠点となる場所が中央に集中しているため、徒歩で来ることのできない高齢者が多い。またMCIや認知症の人が一人で行事やサロンへ参加することが難しい現状がある。	地域のニーズに応じたサロンを開催できる場所を各地域団体とすり合わせすることができ、新たな開催場所の計画ができています。	「活動の場作り」のニーズ調査を行う	・令和7年度のニーズの調査を行った結果、現状あるサロンへの参加者の中に、毎回同じ参加者がいるなど偏りが出ている現状を把握した。そのため、今まで情報が届きにくかった層への情報の周知と今までサロンへ参加していない住民の参加者数の増加に取り組む必要があると認識できた。 ・民生委員訪問の対象とならず、情報が届きにくい高齢者のみの世帯や若い層の世代等を対象とした目標に変更した。SNS等の周知方法を検討するとともに、教室、サロン参加者がどのような媒体から情報を得ているか知ることに目標を変更した。
11	まつがおか	8050世帯は支援に繋がりにくく、問題が大きくなってから表面化する事が多いため、支援が困難である。50代前後の子や精神疾患、認知症、ひきこもりなどの複数課題を抱えたケースへの見守りと関係機関の連携強化を図る必要がある	8050世帯等複数課題を抱えたケースを地域で見守り、支援機関と情報共有し、それぞれ役割をもって対応することができる。	精神疾患、ひきこもり、発達障害など相談先が整理されている。民生委員や福祉村等地域の関係機関には、8050等複数課題を持つ家庭は、問題があり対応が必要なケースという共通認識をもってもらう。	・様々なケースにおいて包括内の専門職種同士で検討し各関係機関（市役所・保健所・障害福祉課・ほっとステーション平塚・しせん相談室・サンシティーひらつか等）と連携を取りながら相談を進めていくことができた。解決に至らずとも相談のルールに乗り、心を開いてくださるケースもできてきている。 ・令和8年度も同様に支援をしていく。
12	みなと	比較的活動性を保っている高齢者でも、金銭的余裕がないと社会参加を勧める場がない。	地域におけるサロンなど社会参加の場を把握すると同時に情報の見直しを行うことで、住民がタイムリーな情報を得て地域で活躍できる場を自ら選ぶことができる。	・公民館や通いの場の特徴や、社会資源としての現況を把握する。 ・活動やサロンの内容や方向性、利用した感想や新規加入に積極的ななど把握し、地域住民に具体的に紹介できるようになっている。 ・把握したものを地域の傾向や課題としてサロン主催者などと共有し共有することができる。	・港地区の全団体を把握することはできていないが、前年度までと比べると新しい情報を住民に紹介できるようになった。団体によっては公民館の規約に反して新規加入を募集していない等気づきも多かった。 ・令和8年度も同様の調査を継続することを予定している。調査票や調査方法は全職員で確認し、修正せず取り組む。
13	ゆりのき	重篤化してから相談につながるケースが増えており、高齢者の孤立・閉じこもり防止に向け、フレイル予防や相談窓口の周知啓発と支援に繋げるために、地域のネットワークを広げる必要がある。	崇善・松原地区ごとに、地域の団体等と高齢者の孤立・閉じこもり防止に向けたネットワークづくりに取り組み、高齢者が参加できる場や交流の機会が増えている。	地域の団体等と連携し、高齢者の孤立・閉じこもり防止に向けた取り組みを行ない普及啓発ができています。	・令和7年度は、短期目標に掲げた普及啓発に取り組むことができた。 ・令和8年度は、引き続き地域の団体等と高齢者の孤立・閉じこもり予防のネットワークづくりに取り組む。

(5) 地域ケア会議

ア 会議開催数

【令和6年度】	【令和7年度】
地域ケア個別会議：25回	地域ケア個別会議：20回
小地域ケア会議：38回	小地域ケア会議：33回
地域ケア推進会議：1回	地域ケア推進会議：1回

イ 圏域別開催状況

包括名	きたあさひ	みなあさひ	おおすみ	倉田会	ごてん	サンレジ	とよだ	にしひらつか	富士白苑	ふじみ	まつがおか	みなと	ゆりのき
R6個別	0	1	2	2	3	4	1	2	1	2	3	3	1
R6小地域	3	1	4	1	2	3	2	5	3	2	2	2	8
R7個別	1	2	3	5	0	0	0	0	1	1	4	1	2
R7小地域	3	1	2	2	0	3	0	7	1	2	2	2	8